

OCR × 生成 AI で紙書類の処理がもっとスマートに！

自治体の業務での生成AI 活用！その4

世田谷区では、生成AIを組み込んだワークフローを作成し、様々な業務に活用しています。生成AI基盤上のローコードツールなら、他サービスやAIモデルと柔軟に連携できます。今回は、OCR（光学文字認識）と組み合わせた活用事例をご紹介します。

Q OCRとは？ ▶▶ 画像内の文字を解析し、テキストデータとして抽出する技術

紙の文書をスキャンした PDF などの画像ファイルには、文字情報が含まれていません。OCR は画像内の文字を解析し、テキストデータとして抽出する技術です。区の業務でも、紙で提出される書類はまだ多く存在します。これらを後続処理で扱うためには、デジタルデータ化が必要です。

デジタル化を進める上での課題

以前から OCR 処理が活用されてきましたが、以下のような課題がありました

- ✓ 認識精度を高めるための事前設定が必要
- ✓ 読み取り時の誤認識が発生することがある

Point! 生成 AI との連携で課題を解決！

OCR と生成 AI を連携させることで、以下のような改善が実現

- ✓ 事前設定の手間を軽減
- ✓ 誤認識の修正を AI が自動で実施
- ✓ 必要な情報の抽出精度が向上

さらに、ローコードツールを活用することで、OCR や生成 AI 以外の機能とも連携可能です。例えば、抽出した文字情報を基準に従って評価したり、次の生成 AI の処理に自動でつなげたり、創意工夫次第で様々な処理をさせることができます。

モデルケース：非開示情報を抽出する 黒塗りAIの例（公開前チェックに活用を想定）



もちろん、最終的な確認は職員が行う必要がありますが、AI などのデジタルツールに任せられる業務を見極め、継続的に効率化していくことが重要な視点です。